

鳥取 会報

第24号

2011年1月



新年を迎える石谷家住宅

目次	新年の挨拶(連合会会長).....	2	センター紹介(南部広域・岩美町).....	17
	新年の挨拶(鳥取県商工労働部長).....	3	趣味のひとつ(境港市・琴浦町・連合会).....	18
	理事長の抱負.....	4~10	会員のひろば(鳥取市・湯梨浜町).....	19
	平成22年度事業実施状況.....	11~12	SP講習に参加して.....	20~21
	平成22年度SP事業実施状況.....	13	鳥取県の最低賃金.....	22
	平成22年度SP受講者データ.....	14	連合会あいさつ・あとがき.....	23
	合同面接会・SSP事業実施状況.....	15	会員名簿.....	裏表紙
	健康シリーズ(皮膚疾患).....	16		

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

新年のごあいさつ



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 宇野 治 巳

あけましておめでとうございます。

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

シルバー人材センターの皆様や関係機関の皆様には、日頃からシルバー事業につきまして、多大なご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます

ご承知のとおり、我が国は急速に人口の高齢化が進み、二〇一〇年には、高齢化比率が23.1%まで上昇しました。更に、平均寿命の伸びに伴い、「元気な高齢者」が増え、多くの人が何らかの形で生計の維持や生きがいの充実を図るため、その機会を探し求めているところでもあります。

また、労働人口も二〇一五年には5人に1人が60歳以上となり、60歳未満のものは

二〇〇〇年に比べ、約四五〇万人も減少すると見込まれています。このため、高齢者の能力や経験を有効に活用することが急務となつてまいりました。

今までの雇用管理は、かつての豊富な若年労働力を前提として構築され、運用されてきました。しかし、近年の急速な高齢化と労働力需給の動向を考え合わせると、若年指向型の雇用管理システムは、企業経営自体成り立たなくなると言われています。

このような中では、高齢者の積極的な雇用と、その能力の有効活用に向けて、現行の雇用管理システムを基本的に見直し、再構築する必要性が指摘されてまいりました。

一般的に、高齢者の雇用・就業には健康

状態・仕事の能率・新しい仕事に対する適応性や協調性などの点で問題が生じていますが、これらの問題をいかに克服するかが高齢者就業の課題となっております。

今後、シルバー事業の役割は益々重要となつてまいります。高齢者の多様な就業ニーズに適切に応え、地域の発注者にとつても満足度の高いサービスの提供に心掛け、活力ある地域社会づくりを目指したいものと考えております。

今後とも、関係者の皆様のご健康と更なるご活躍を祈念し、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

鳥取県商工労働部長

山根 淳史



新年明けましておめでとうございます。
皆様方におかれましては健やかに新年を
迎えられたことと存じます。

日ごろ本県の商工労働施策に御理解と御
協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、皆様方も既にご承知のとおり、現
在の雇用情勢は全国的に厳しい状況が続い

ており、有効求人倍率も低迷しています。

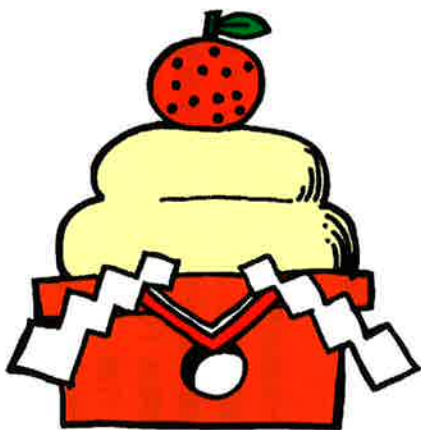
本県におきましても、この状況を改善する
ため、平成二十一年から緊急雇用対策基金
事業等の雇用対策を積極的に進めていると
ころです。しかしながら、県内の有効求人
倍率は若干の改善が見られるものの、未だ
に六割程度であり、正規職員の求人に限れ
ば三割程度と、依然として厳しい状況にあ
ります。

こうした中で、シルバー人材センターに
おかれましては、会員の皆様方の経験・技
能を活かし、様々な分野で社会貢献をして
来られたところですが、一昨年の事業仕分
け、さらに昨年の再仕分けにより、本年の

国からの補助金が一層削減される見通しと
なり、より効率的な運営を求められること
になりました。

このように厳しい情勢が続く中ではあり
ますが、県としても出来る限りの支援を行
ってまいりますので、今後とも、シルバー
人材センターの会員の皆様方が一丸となつ
て、社会の需要に合った事業を展開され、
皆様方の社会生活の安定に結び付けていた
だきたいと思えます。

終わりに、今年が、各シルバー人材セン
ターが輝かしい実績を上げられ、また、会
員の皆様方が、ますます御健康で生き生き
と御活躍される年でありますよう祈念いた
しまして、新年の御挨拶といたします。



シルバー人材センター 理事長の抱負



(社)鳥取市シルバー
人材センター
理事長 木島 敏行

新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい二〇一一年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、近隣諸国との様々な摩擦やトラブルに国民は不安を抱え、長引く景気の低迷、雇用の落ち込み等生活にも支障をきたしました。

一方、鈴木章博士や根岸英一博士のノーベル化学賞受賞など素晴らしい年でもありましたが、一年間を振り返ると、暗いニュースに圧倒された年でした。各シルバー人材センターにおかれましても、事業仕分けによる補助金の見直し等による運営の苦しさがつきまとう不安な一年であったことと思います。



また、「公益社団法人」認定に向けた申請事務も多忙を極める事態となっております。その上、「公益社団法人」に移行したとしても、その後は「互助会」のあり方についても法律遵守の基本理念に基づいて我々を悩ます大きな問題となり

ます。

しかしながら、超高齢社会におけるセンターへの期待は大きく、その果たす役割は益々重要になってくると思われます。

そこで、今年一年はセンターの適正な運営を行うため会員並びに役員が意識を改革し、新制度に対応するしつかりとした組織作りを行い、足腰の強い基盤を作って参る所存です。

今年も、多くの皆様にご支援とご協力を賜りますようお願いするとともに、関係各位のご多幸をご祈念申し上げて、新年のご挨拶とします。



(社)米子広域シルバー
人材センター
副理事長 後藤 巖

新年あけましておめでとうございます。

シルバー連合会会員、事業関係者の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

当センターは、地域の皆様のご支持のもと、米子市・日吉津村など関係機関のご支援と皆様のご協力により、鋭意、事業運営が図られていますことを厚くお礼申しあげます。

現在、国及び地方自治体の補助事業・公共事業は相変わらず厳しく、世界的な景気の低迷により民間事業の需要も、やはり限られています。更に一昨年以降、国の行政刷新会議「事業仕分け」の評価結果を受けての予算削減など、シルバー事業は極めて厳しい運営を迫られています。また、新しい公益法人制度についても、着実に移行してまいらなければなりません。

そしてシルバー事業は、その「自主・自立・共働・共助」の基本理念、「会員」制の就業により、現役までの生活収入のためでなく、高齢期の人生を地域社会に関わる主体的な就業によってやりがいを実感する「生きがい就業」として現在に至っておりますが、事業発足以来、三十余年の間に社会構造・環境の変化や地方経済の低迷の直接の影響で、生計の維持を目的とする入会者が激増する、あるいは専門性や経済性を求める受注も目立つなど、シルバー事業に求められる役割はより深刻さを増しています。

極めて厳しい状況ですが、時代の要請に応えながら、住民・会員の皆様にとつて魅力のあるシルバー人材センター事業が、明るく活力に満ちた地域社会づくりの一助となりますよう取り組んでまいりたいと思えます。シルバー事業関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。





(社)倉吉市シルバー
人材センター

理事長 中林 正樹

新年明けましておめでとうございます。皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、国においては「新成長戦略」に基づき、日本経済を本格的に回復軌道に乗せるとともに、デフレを終結させるよう政策運営が行われていますが、雇用情勢は依然として厳しい中であって、当センターの11月末までの請負・委任の事業実績は、前年同期と比較し、受注件数は79件の減、会員数は14名の減ですが、就業延人員は二千七百九十八名の増、請負金額は九百二十二万円余の増で推移しているところと。

このような中であって、昨年11月15日に開催された、第三弾の国の行政刷新会議「再事業仕分け」において、「平成22年度概算要求額の三分の一程度の縮減を実施すべし」との評価結果となったことに伴い、会員の皆さまに、「シルバー人材センター事業予算の確保のための要望活動」として、署名のお願いをしたところ、二千七百七十四名と会員数の約5倍に当たる署名を集めていただきました。

また、署名活動と同時期の11月30



(社)境港市シルバー
人材センター

理事長 西村 岩市

新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨今のセンターを取り巻く経済情勢は、かつて経験のない長引く地方状況の中、今年度もまた補助金の減額という国の政策は「地方シルバーセンターの実態をいかに知り得た政策なのか、時間をかけた十分な調整・審議が行われないうまま、全シルバー人材センター一律の評価としか考えられない。この情況も今後いかなる対策により国への改善を願うのか。

今年の最重要課題として、全国シルバー人材センター事業協会に要請すべきと思いますが、諸先輩各位のご指導で協力もお願いし、活動を進めたいと思っております。いかがでしょうか。

とは申せ、新しい年明けとともに地域の関係機関にシルバー人材センターのおかれた現況、立場を再認識いただき、実りある一年となることを念願するものです。明るさの見えない地域経済状況の中で、このようなきざらから

そ、今一度原点に立ち返り、「自主・自立・共働・共助」の基本理念のもと、会員・役職員が一体となり、地域社会から信頼され、地域社会に貢献するセンターを目指し、会員各位の技術の研鑽・事業



内容のPR・事業の拡大に鋭意努力して参ります。本年は、「公益法人化」認定に向かって進まなければなりません。認定申請にあつては、財政基盤の確立が条件です。会員各位のご理解・ご協力のもと、増収に向かつて鋭意前進することを誓い、新春のごあいさついたします。



(社)南部広域シルバー
人材センター
理事長 安達 幸男

新年あけましておめでとうございます。皆様には、ご家族お揃いで穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、シルバー事業の運営にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

今、少子高齢化が急速に進む中、高齢者が安心して暮らせるために、地域に密着したシルバー人材センターに求められる役割が、一層重要となっております。その反面、行政刷新会議「事業仕分け」第一弾で補助金の減額と評価され、収益事業を持たない地方のシルバー人材センターは厳しい事業運営を強いられることとなりました。当センターは、機構改革に踏み切り、人件費の削減・運営費の合理化を図ってまいりました。今年も組織の充実・強化を図ってまいります。

昨年11月の「再仕分け」第三弾において、平成22年度予算要求三分の一程度の縮減を確実に実施するように評価がなされ、これ以上の補助金の減額は、シルバー人材センターの機能低下を招き、高齢者の生活そのものに影響するのではないかと危惧するところです。このような状況下においては、理念や法

令を忠実に遵守し、「安全・適正」就業に努めることが強く求められています。

安全就業を最優先に考え、事故の撲滅に努めます。違法行為とされる「雇用まがい」や「偽装請負」を払拭し、一般労働者派遣事業に切り替え、適正就業に徹します。引き続き公益法人化への移行も進めてまいります。

日常生活で大切にすることが「就業・会員」の拡大であり、地道に粘り強く掘り起こし、その拡充に努めます。また、現況を良く認識し、意識改革することが強く求められており、その実現を考えます。

今の危機的状況を前向きに捉え、元気で活力があり、地域に信頼され、地域社会に貢献でき、高齢者が安心して暮らせるシルバー人材センターを目指し、頑張っております。

終わりにになりましたが、本年も皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。関係各位のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



(社)智頭町シルバー
人材センター
理事長 小林 實夫

(烏兔忽忽)

新年明けましておめでとうございます。

今年の干支は「兔」で「卯・ボウ」とも表します。古来よりの伝説では、太陽には三本足のカラスが棲み、月にはウサギが棲むとされ、カラスが太陽、ウサギが月で、日月を「烏兔(うと)」と表すようになり、「年月」「歳月」の意味でも用いるようにな



りました。振り返り、一昨年の「事業仕分け」、昨年の「事業再仕分け」に見られる様に、シルバーセンターに対する国(と言うか国会議員及び厚労省官僚)の認識度は非常に希薄であり、このことばかりが浮彫りになる結果となりました。

然しながら裏返して我々の認識も、これまで国(補助金)に対して「当たり前」や「当然」と思い込み、何もしなかった結果だとも自問自答しております。これからのシルバーセンターを取巻く環境は、補助金のみならず運営面においても非常に難しい舵取りを求められますが、この様な時こそ「ピンチをチャンスに」とこれまで培った「シルバーパワー」で乗り切って行きたいと思えます。

新しい年がそれぞれの地域や、シルバーセンターを取巻く状況を未来に向け明るく転換できるように願いながら、皆様と手を携えて行きたいと思う次第です。

「忽忽(そうそう)」は「忙しいこと」「慌ただしいこと」を意味し、「烏兔忽忽」で月日があわただしく過ぎる事、月日が経つのが早い事を表します。改めて新しい「兎年」がウサギの様に、「ピョンピョン」と飛躍できるようにしたいものです。

最後になりましたが県シ連を始め、各センターの益々のご発展をお祈りし新年のご挨拶いたします。



(社)岩美町シルバー
人材センター

理事長 谷口 幹彦

謹んで新春の御挨拶を申し上げます。
会員の皆様、関係者の皆様には、日頃よりシルバー事業に多大なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

岩美町シルバーは、平成9年発足以来「福祉の受け手から社会の担い手」となることを理念に事業推進に当たり、さまざまな障害を克服しながら充実発展し、現在に至っております。

平成22年7月には、浦富海岸を含む山陰海岸ジオパークに認定され、今後官民一体となつて多様な取り組みがなされるところであります。当シルバーも出来るだけの協力をしていきたいものと考えております。

さて、国では昨年に引き続き、予算編成のために事業を見直し、「事業仕分」として、シルバー補助金の三分の一を減額するという方針を打ち出しました。

これは、全国のシルバーにとって重要な問題と捉え、早速、国及び地方の関係方面へ善処への要請をしているところです。高齢化社会が進む中で、シルバーがどのような状態におかれても、その役割は一層増しており、岩美町にとってかけがえのない存在であると自負しております。この時こそ、私たちシルバー世代が先頭に立ち、努力しなければ、地域の発展はないものと考えています。

さらに、シルバーをより確かな組織体とするために、公益社団法人への移行を目指して、鋭意準備を

進めています。全国及び県下の拠点シルバーが足並みをそろえて、法人化への道をたどることが大切であらうと思われれます。

このような事情をご賢察いただき、皆様のご支援助とご協力を賜りますようお願いいたします。

シルバー人材センターの諸課題が、明るい方向へ進展することを祈念し、年頭の挨拶といたします。



(社)湯梨浜町シルバー
人材センター

理事長 足立 春人

平成23年度の新春を迎え、皆様にとって本年がよい年でありませう祈願いたします。

昨年は、国の行政刷新会議による事業仕分け作業第三弾が行われ、私たちのシルバー人材センターもその対象団体となり、二年連続で補助金の大幅縮減が提言されたことから、急遽県及び各市町のシルバー人材センターの取組みとして、厚生労働大臣へ要望書を提出するため署名活動を行うことになりました。

湯梨浜町では、署名活動について地域班長を通して全会員へ協力依頼したところ、約80%の回収率があり、会員の皆さんからたくさんのご意見を頂きました。特に今回は、家族の方や知人の方の署名が多くあり、センターの存続に対する会員の強い危機感が伝わってきました。私自身も多くの知人と会い、署名活動について状況説明を行ったところ、国の考え方に対する不満などたくさんご



意見を頂きましたが、皆さん快く署名してくださいました。

町民の方から信頼されて行っている草刈・障子の張り替え・庭木の剪定・墓掃除など、高齢化社会の中で高齢者の就業機会が減少しないように、高齢者の方が安心して暮らせる社会となるように、シルバー人材センターの必要性を皆さんと共に再認識し、危機意識を持って諸活動に取り組みたいと思います。



(社)琴浦町シルバー
人材センター

理事長 足立 慎夫

あけましておめでとうございます。おかげをもちまして、国庫補助団体として6年目を迎えることができました。平素からご理解とご支援を頂いております。関係各位に心から感謝申し上げます。

少子高齢化が進む社会にあつて、シルバー人材センターは地域社会にとって、今やかけがえのない存在となっております。厳しい経済情勢に加えて、行政刷新会議の「事業仕分」での偏った評価で、当面の事業運営と先行きの不安で、危機的な状況に置かれています。

私たちは、働くことを通じて地域社会の一員としての生き甲斐を実現するとともに、健康の維持・増進に努め、医療や介護の財政の軽減にも寄与しているところであります。

現在、恒例の行事となりました視察研修・グランドゴルフ大会・レクレーションの集いなどを通じて、会員相互の親睦に努めています。なお、ボランティア

ア活動も実践して、地域社会とのつながりを強める試みも推進しているところでございます。

今後は、運営基盤の確立に努めるために、公共事業や企業への働きかけと、独自事業の開発に向けての取組みの強化に努めてまいりたいと存じております。更に、地域との連携をいっそう深め、援助や支援によるサービスの分野や、地域環境の保全や孤かな高齢者の安否確認などの領域にも活動の場を広げ、より地域社会に根ざした共生社会のネットワークづくりに寄与してまいりたいと念願しております。

会員と役員と事務局が、それぞれの役割を担い、スクラムを組んで総力を結集し、やる気と元気にあふれた明るいセンターを目指してまいりたいと存じますので、特段のご支援を賜りますようお願いいたします。

皆様の今後のご活躍をご祈念申し上げます。



(社)北栄町シルバー
人材センター

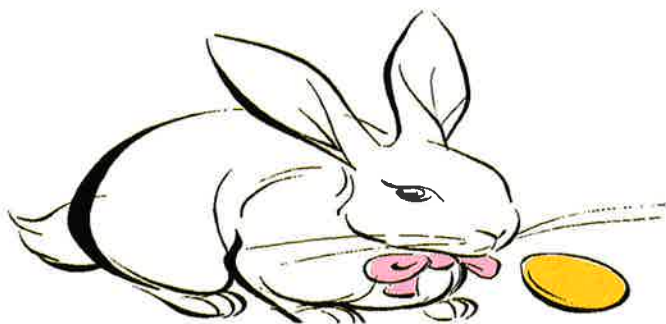
理事長 日置 勝彦

新年明けましておめでとございます。

長引く経済の停滞は、就職氷河期といわれるように若者の夢と希望に大きな影を落としています。シルバー人材センターも政府の歳出削減による事業仕分けの対象となり、補助金削減によるセンター存亡の危機が切実なものとなりました。

事業仕分けによる質疑では、補助金三分の一カット方針を撤回するだけの理論が不足だったのでないかと思いますが、全国シルバー事業協会による政府要求交渉の進展に期待するところです。

一方、天下り的高額所得者の要員配置があると



するならば、見直しをするのは当然であり、シルバー人材センター自らの管理体制の効率化も避けて通れません。こうした厳しい情勢にあるわけですが、北栄町シルバー人材センターとしては、利用者からの要望に応え、喜んでいただき、次回も引き続き業務依頼をいただけるようなサービスを提供し、シルバーの存在と信頼をより高めることを基本に捉えてまいりたいと思っております。

同時に、長年培ってきた知識や経験を活かし、健康を維持するとともに生き甲斐を主としている方や、離職や失業等による生活費の補助としている方等々、会員はいつでも社会貢献として地域に恩返ししている方々ですが、会員の就業機会の確保のことが喫緊の課題となっております。このことは、新会員の加入増を図るためにも、役職員の大きな任務であると責任を感じるところです。

高齢者世帯や独居世帯が増加しつつある今日、御用聞き的な業務も含めて、町当局はもとより町民の皆様との理解とご協力をいただくよう、より積極的に取り組んでいこうと思っております。

今年も安全第一・事故防止の徹底・利用者の皆様とのコミュニケーション・あいさつの励行を喚起していきたいと思っております。



(社)大山町シルバー
人材センター

理事長 近藤 昭夫

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。

各シルバー人材センター会員の皆様、そして関係各位の皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成20年のアメリカの金融機関の破綻を契機に、全世界に金融不安が席捲し、未だ先の見えない経済環境が続いており、場合によっては、これが通常の経済情勢かもと感じておるところです。

一方、日本も様変わり政権交代の改革もあり、緊縮財政の中、「事業仕分け作業」による補助金削減の波がシルバーセンターにも押し寄せ、私ども弱小センターの財政面は、危機的な状態に陥っております。可能性がございません。

また、事業の方も前年比80%を割り込み、この3月末が乗り切れるのか、寝ても覚めても頭痛の種であります。

その上、新公益法人制度改革が目前に迫り、事務局も平常の業務の中、申請手続の準備で忙殺されており、何か手伝うことがあればと思っております。しかし、何か3年前に初めてセンターの中に入り、平理事の末席のものが口を挟む余地があるはずもなく、申し訳なく思っているところです。

センターが合併して7年目、「福祉の受け手から社会の担い手」となることを理念



として事業に取組み、高齢者が地域社会に溶け込んでいることは紛れもない事実です。
 利用者の要望に応え、会員が培ってきた経験を活かし、利用者に喜ばれ、しかも健康で作業が出来、地域に恩返しできることは、シルバー人材センターの会員冥利に尽きるものです。
 最後にになりましたが、事故防止のため、平素から注意を喚起し、特に重篤事故防止に全力を注ぎたいと思っています。



(一・社) 八頭町シルバー人材センター
 理事長 衣笠 春寿

新年あけましておめでとうございます。各シルバー会員の皆様、それぞれの地域社会においてかけがえない経験やスキルを積んだ重要な役割を担って行かれる新しい年が始まりました。一方で残念ながら迎える高齢化社会は今年も引き続き多方面に社会不安をのぞかせ、政治・経済とも一層の混迷を確実視される深刻な状況となっております。加えて昨年から事業仕分け、一面シルバーの現状が正確に認識されているのか疑われるような行政方針がシルバー事業に大きな不安をなげかけて来ております。

八頭町シルバー人材センターは、平成17年3月に旧三町(郡家・船岡・八東)が合併し区域が拡大され、さらに平成21年1月に一般社団法人として組織体制づくりを図り、名実ともに地域貢献を前進させ社会的信用を高めつつやうやく二年目の新生センターです。就業内容の多くが地方の高齢者に適う日常生活に密着した作業で、利用者の大半が高齢者という今時代らしいローカルな事業が特徴です。幸いに

も町行政の前向きな補助支援や就業機会の提供、地域とのなじみも増して会員数、事業量とも増加、信頼されるシルバーの礎の定まってく喜びを感じているところです。昨年5月には事務局長、事務員二名体制が整い、役員と一丸となつての会員サポートができる組織強化もできました。高齢者が支えるシルバー事業の推進で重要な目標は事故防止、重篤な事故は絶対起こさないという合言葉、防止対策の実践であることは云うまでもありません。社会情勢の不安、シルバーをとりまく環境のきびしさはしっかりと認識しながら、シルバーの現場はいつも元気で、明るい笑顔で働けることを通じての生きがいづくり、地域への社会貢献を実現していくための日々の会員相互の穏やかな融和。良い年になるよう念じ、更なる向上に皆様のますますのご指導をよろしく願います。



日南町シルバー人材センター
 理事長 矢吹 隼之

皆様あけましておめでとうございます。
 昨年(シルバー人材センター)にとつて試練と苦難の年でありました。会員の減、仕事の減、それに伴う収入の減と、ますます活動が出来にくくなりました。少子高齢化のトップクラスにある日南町も必死になって、打開策を練っているようですが、不況の波を乗り切れることは至難の技のようです。

今年(卯年)です。跳ねて跳んで飛躍の一年にして、目的(会員の拡張・仕事の拡大等)に向かって励み、進むことです。
 それに、行政側の理解と協力を得ることが欠かすことの出来ない条件です。今、政局を見るに、今年も私たちにとって簡単に明るい材料は転がってきそうにもありません。みなさん、今こそ手をつなぎ、歯を食いしばり、額に汗して頑張っていこうではありませんか。村の皆さん、町の皆さん、そして行政の皆さん、私たち(シルバー人材センター)もおこし・町づくりの一員として頑張りたいものです。
 「会員の仲間に幸多かれ、町のみんなに活気あれ」と念じつつ、初詣の神社の前で力一杯、拍手を打って参りました。



江府町シルバー人材センター
 理事長 宇田川 勉

新年あけましておめでとうございます。
 新しい年を迎え、会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
 さて、百年に一度と言われる不況の中で、急速な少子高齢化が進み、年々総人口に占める高齢者の割合が増加してきています。高齢者の厳しい雇用状況

の中で、シルバー人材センターを取り巻く環境は大きく変化してきており、国及び地方の財政事情による雇用機会が著しく少なくなり、加えて民間の発注が不況を反映し、厳しい状況下にあります。特に、法人化していない小規模なシルバー人材センターにおきましては、その厳しい現況が現れております。

このため、会員の自主的な参画による就業機会の開拓・他で実施していない生活の隙間（専門業者に頼むほどではないが、自分だけでは出来ない）というような、隙間を埋めるような事業を受託実施し、就業分野の拡大が当面の課題であると考えます。

また、就業だけにとられない後期高齢者を中心として、ボランティア活動などの社会活動を行うことにより、地域におけるシルバー事業の理解と信頼を深めるよう取り組んでまいります。

事業計画

(1) 安全・適正就業推進事業

シルバー事業の基本理念である安全就業・適正就業を実施し、事故防止を最重点に、まず自己の健康管理の充実を図り、安全第一を基本とした作業前打合せを十分行い、安全点検を励行し、事故防止に努めます。

(2) 普及啓発活動

シルバー人材センターの意義・理念・事業活動を広く地域社会に浸透させるための積極的な地域参加で広く普及啓発活動を行います。

(3) 就業開拓事業

会員の希望に応じた多様な就業機会を開拓し、受注拡大に努め、地域の情報はもと

より会員相互の連絡を密にして、一般家庭への啓発活動を行い、就業機会の拡大を図ります。

また、地域に住民生活に欠かせない（隙間の仕事）を積極的に受注、実施して拡大を図ります。

(4) 技能・知識の向上

地域社会の多様な需要に対応するため、技能の習得講習・研修会等の開催、また連合会等の講習会・研修会に積極的に参加し、会員の技能・知識の向上を図ります。



三朝町シルバー
人材センター
理事長 馬野 忠嗣

一昨年の政権交代後、依然として政治の安定もなく、経済不況の続く中、若者は職場や夢を失い、家庭を支える多くの人は、明日への不安にかられ、私たち高齢者にあっても、かつてない国・地域の危機を感じるまま新年を迎えました。

このような中で、シルバー人材センターのあり方・新年の抱負を述べることは、実につらいことでもあります。

国・地方とも財政不足で前向きな施策も出来ない中、補助金の問題をはじめ、公益法人としてのシルバー人材センターの組織そのものが問われつつあるように思われます。

また、何よりも自主財源の確立には、受注作業分野の開拓が必要でありましょう。しかし、そのための行政・地域・各種事業体等との対話、連携が不足しているように思われます。会員一人ひと

りの目的意識も強化すべきでしょう。

昨年、事業の民業圧迫という問題が聞かれましたが、我が町でも町内公共施設である公園・町林道等の管理方法について町議会より町へ「【委託算定基準】はどの様になっているのか」と質問がなされ、センターが発足した平成16年度以降、センターへの委託により、管理費は民間に委託する場合の5割程度であることが答弁されたようです。また、町内奥部の高齢化は農地の荒廃・福祉問題など、問題が山積みしており、小さな田畑の草刈り・耕運・墓の清掃等広く求められてまいりました。

このような現実の中で、会員の能力に応じ「確かな仕事」が私たちのモットーとするところであり、「高齢化社会対策を担うシルバー人材センター」として、私たちは過去の実績・将来の展望の上に自信を持って、内外にこの言葉を発したいものであります。

新年に当たり、県下会員各位の健康と、よりよき組織の拡充が図れますようご祈念申し上げます。挨拶といたします。



平成二十二年 事業実施状況

理事長・事務局長会議

鳥取県知事 平井 伸治 殿

高齢者が安心して暮らせる社会を実現するために、少子高齢化が進む中、シルバー人材センターが求められる役割を十分に発揮し、高齢者が安心して暮らせる社会を実現していくために、補助金の削減をしないよう強く要望します。

「高齢社会対策を担うシルバー人材センター」
高齢者が安心して暮らせる社会を実現するために、少子高齢化が進む中、シルバー人材センターが求められる役割を十分に発揮し、高齢者が安心して暮らせる社会を実現していくために、補助金の削減をしないよう強く要望します。

「厳し」補助金の削減は、シルバー人材センターの事業の存続に大きな影響を及ぼす。具体的にはセンターが受託する受託開拓と各委員の経験・能力に応じて仕事を提供して、小さな仕事をひとつひとつ取り起こし、現場確認から、契約、受託代金の回収等高齢者の就業を支える多大な業務があり、センター事務局は、単に内部事務を処理すれば済むものではなく、コネクションとしても重要な多大な役割を担っています。

「厳し」補助金の削減は、シルバー人材センターの事業の存続に大きな影響を及ぼす。具体的にはセンターが受託する受託開拓と各委員の経験・能力に応じて仕事を提供して、小さな仕事をひとつひとつ取り起こし、現場確認から、契約、受託代金の回収等高齢者の就業を支える多大な業務があり、センター事務局は、単に内部事務を処理すれば済むものではなく、コネクションとしても重要な多大な役割を担っています。

平成二十二年十一月二十六日
鳥取県シルバー人材センター連合会
会長 宇野 治 巳

十一月二十二日(月)倉吉市において、先の行政刷新会議の「再事業仕分け」により、平成二十二年度シルバー人材センター援助事業予算要求の三分の一削減の徹底との評価結果を受け、当連合の対応を協議し、各関係機関に要望書を提出することを決議しました。また、厚生労働大臣へ県下で取りまとめた署名を提出し、削減に対して歯止めをかけるよう要望することとしました。

就業機会開発推進委員会

九月七日(火)米子市で開催
議題
(一)平成二十二年就業機会開発推進事業実施計画について
(二)平成二十一年連合・センター就業機会開発実施状況について
(三)その他

シルバー人材センター事業普及啓発促進月間

全シ協では、毎年十月を「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」と定めて、シルバー人材センターの活動を通



じて、広く地域の人々や行政等の理解と認識を深めて貰うことにより、シルバー人材センターの一層の発展と拡充を図ることを目的として、全国一斉に会員参加型の社会奉仕活動や住民との交流の輪を広げる運動を展開しています。



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会では、「シルバーの日」(10月16日)に啓発用品ポスターの配布・米子市街でのリーフレット等啓発用品の配布を行い、各センターにおいて、イベント事業への参加、リーフレット・チラシ等の配布、公共施設等での清掃・除草等の奉仕作業を行うなど、多様なPR活動を実施しました。

平成二十二年 鳥取県経験交流大会



平成二十二年
十一月十二日(金)

午前十時三十分か
ら倉吉市において
開催しました。

大会は、県内シ
ルバー人材センタ
ーの役員・会員・
市町村の担当者
の方々、百八名の参

加のもと、宇野連合会会長の挨拶の後、倉吉市の石
田市長・鳥取労働局の平岡職業対策課長よりご祝辞



をいただきました。
基調講演には、(社)
鳥取県シルバー人
材センター連合会
の宇野会長から、派
遣事業の積極的な
取組み」と題しての
講演がありました。
次に、(社)南部
広域シルバー人材
センター事務局長
の米澤陸雄氏より
新任事務局長研修
に参加されたとき
の意見発表をして



引き続き、宇
野連合会長・米
子広域SCの吉
田事務局長・倉
吉市SCの橋本
事務局長・智頭
町SCの西尾事
務局長・伊藤連
合会事務局長に
より、質疑応答・
意見交換が行わ
れ、成功裏に経
験交流大会を終
えることができました。

いただきました。
午後からは、
アトラクショ
ンとして、青
谷地区民謡愛
好会の皆様に
よります「舞踊
」「演芸」「歌謡」
を披露してい
ただき、皆楽
しいひととき
を過ごすこと
ができました。



平成22年度 シニアワークプログラム地域事業 実施状況

シニアワークプログラム地域事業は、(社)鳥取県シルバー人材センター連合会が活動拠点の協力のもと、多種多様な技能講習を事業主団体と連携をはかりながら実施する事業です。

講習の種類は、長期講習(40時間を超える講習)と短期講習(20時間を超え40時間迄)の2種類となります。

平成22年度は、長期講習15回(介護講習3回を含む)、短期講習5回を計画し、順次実施しております。

1. 長期講習

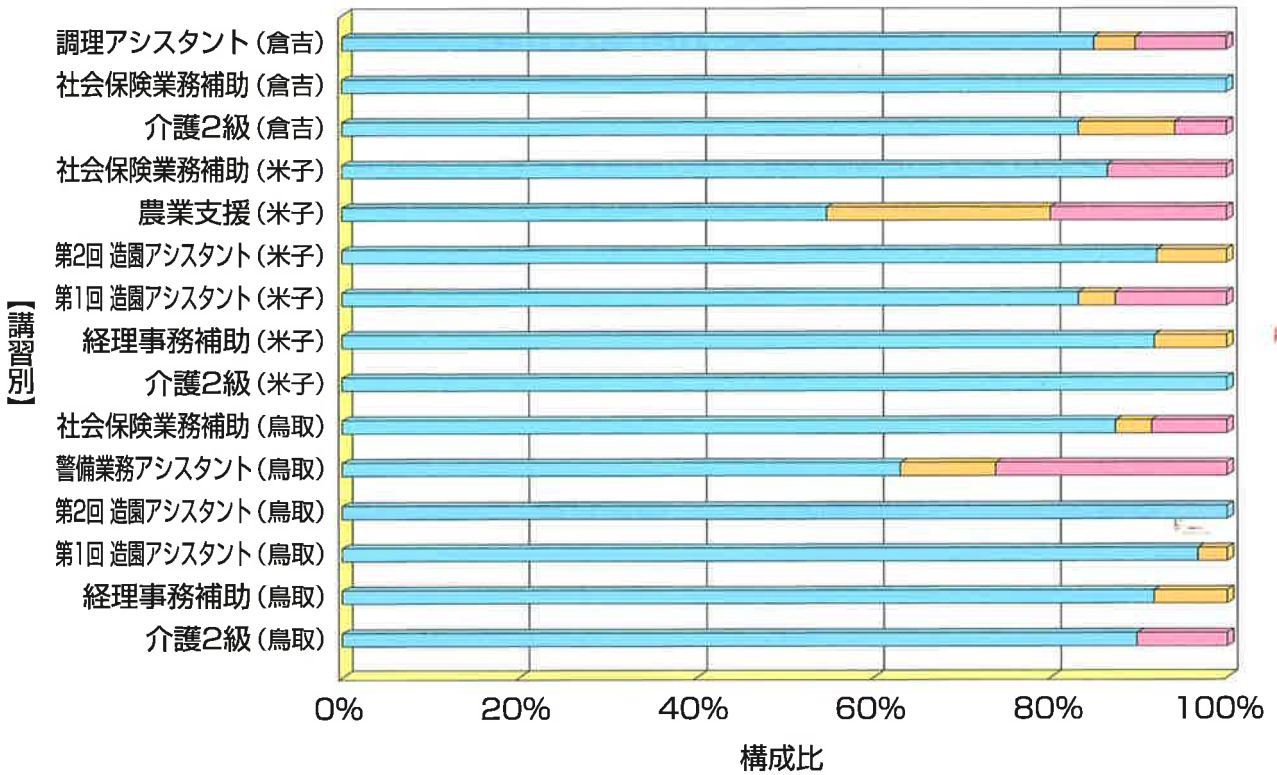
講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	受講者	修了者
技能講習						
経理事務補助	鳥取会場	5月11日～5月21日	9日間	25名	25	23
経理事務補助	米子会場	6月8日～6月18日	9日間	25名	25	23
農業支援	米子会場	6月15日～12月3日	11日間	20名	20	11
造園アシスタント1	鳥取会場	6月21日～7月1日	9日間	30名	30	29
造園アシスタント1	米子会場	7月2日～7月14日	9日間	25名	24	20
調理アシスタント	倉吉会場	8月25日～9月3日	8日間	20名	20	17
社会保険業務補助	米子会場	9月1日～9月10日	8日間	20名	30	26
警備業務アシスタント	鳥取会場	10月5日～10月15日	8日間	20名	19	12
社会保険業務補助	鳥取会場	10月20日～10月29日	8日間	20名	24	21
造園アシスタント2	米子会場	10月25日～11月5日	9日間	25名	26	24
造園アシスタント2	鳥取会場	11月8日～11月18日	9日間	30名	30	30
社会保険業務補助	倉吉会場	11月10日～11月19日	8日間	20名	20	20
介護講習(2級課程)						
訪問介護員養成研修	米子会場	6月28日～8月11日	23日間	20名	20	20
訪問介護員養成研修	鳥取会場	8月23日～10月4日	23日間	20名	20	18
訪問介護員養成研修	倉吉会場	9月28日～11月9日	23日間	20名	18	15

2. 短期講習

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	受講者	修了者
保育・子育て支援	米子会場	7月27日～8月2日	5日間	15名	24名	23名
経理事務補助	境港会場	8月3日～8月10日	6日間	20名	20名	20名
造園アシスタント	智頭会場	8月31日～9月6日	5日間	20名	25名	24名
造園アシスタント	南部会場	10月13日～10月19日	5日間	20名	20名	20名
室内装飾アシスタント	北栄会場	1月24日～1月28日	5日間	20名		

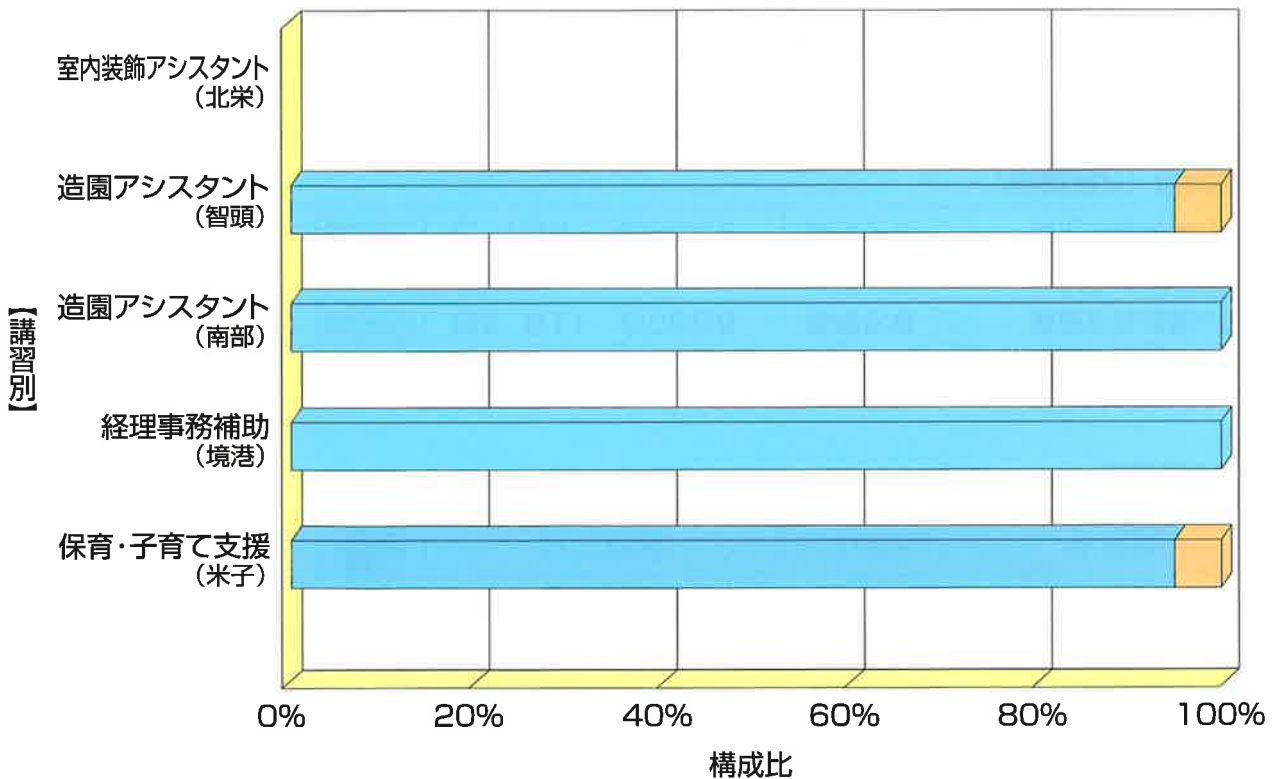
受講者データ(長期講習)

■ 修了 ■ 途中修了 ■ 不参加



受講者データ(短期講習)

■ 修了 ■ 途中修了 ■ 不参加



合同面接会の開催(地域別)

シニアワーク
プログラム地域
事業の一環とし
て、地域のハロ
ーワークとの共
催により、各講
習修了者及びハ
ローワーク通所
者及び一般の高
年齢求職者を対
象とした、地域
別の合同面接会
を実施しました。



十二月二十四日現在、両地域の面接の結果、一名の方の採用が決定しております。

◎東部地区

- 日時 平成二十二年十一月二十四日(水)
十三時三十分～十五時三十分
- 場所 白兔会館
- 求人 五社八十七名
- 求職者 二十三名
- 共催 鳥取公共職業安定所

◎西部地区

- 日時 平成二十二年十一月二十九日(月)
十三時三十分～十五時三十分

- 場所 ホテルサンルート米子
- 求人 四社 三十七名
- 求職者 二十一名
- 共催 米子公共職業安定所

シニア就業支援 プログラム実施状況

昨年度から厚生労働省鳥取労働局の委託事業としてスタートした『シニア就業支援プログラム』(SSP)事業は、各シルバー人材センターやハローワークほか、関係機関の方々のご協力により、八百二十七名が登録しています。就業支援セミナーは、鳥取労働局より

『失業の認定における求職活動実績』として取り扱うとの認定を受け、ワークシヨップとともに好評で七講座・一コースを終了し、参加者は四百三十八名と順調に推移しています。特に、十一月十一日の介



護の日に開催したセミナー・ワークシヨップでは、社会福祉会講師の「介護保険のイロハ」やハローワークから「シニアの就職市場と求人情報」の講演後、福祉器具を実際に使用するワークシヨップや特殊器具を装着し、高齢者の身体的機能低下の疑似体験に八十六名の方が参加しました。

これからも、より多くの会員の方に社会参加をしていただけるよう、人材ニーズを的確に収集し、マッチングに取り組んでまいりたいと思っております。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

セミナー			ワークショップ		
6月22日	鳥取市	38名	11月11日	米子市	86名
6月29日	鳥取市	42名			
8月24日	倉吉市	33名			
9月29日	米子市	49名			
10月 7日	米子市	54名			
11月11日	米子市	86名			
11月26日	鳥取市	50名			
小 計		352名	小 計		86名
合 計			438名		

足に見られる 皮膚疾患



山陰労災病院

皮膚科部長

三島 エリカ

2足歩行をする人類にとって足は大事なものです。自分の足をしっかりと見る機会は意外に少ないものではないでしょうか。

まず足が他の部位と異なる特徴は運動機能をすることや体重の負荷や靴・靴下・発汗などによる刺激があること、角層が厚いことなどです。そのため足の皮膚疾患があるために歩行障害を来すこともあります。

そこで本稿ではよく見られる疾患について述べさせていただきますと思います。

足部に限らず皮膚疾患は大きく腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患に分かれます。

腫瘍性疾患の代表としては良性腫瘍の色素性母斑：いわゆる「ホクロ」と悪性腫瘍のメラノーマ；いわゆる「ホクロのがん」です。以前は

足の裏のホクロは悪性化の可能性があるので早期の切除が望ましいといわれてきましたが、近年診断の助けとしてダーモスコピーが使われるようになり、典型的なホクロの所見があれば切除せず経過を見るという選択ができるようになり

なりました。

非腫瘍性疾患の代表は足白癬、胼胝、鶏眼、陥入爪でしょう。

足白癬はいわゆる「水虫」で白癬菌という真菌（カビ）の一種が角質層に棲み着くことよって起こる病気です。かゆみなどの自覚症状がないこともあり気がついていない方もおられます。抗真菌剤を塗ることでもよくなりますが、少しよくなると治療をやめてしまわれることが多い、「なおらない」・「また時期になってまた」ということになりがちです。症状がなくなっても1ヶ月以上は薬を塗り続けてください。また治療を続けていても治らない場合、足白癬に見た目が似た疾患：掌蹠膿疱症のことがあります。病名の掌蹠からわかるように手のひらと足の裏に小さな膿疱が多発し、軽快増悪を繰り返し、慢性に経過するものです。扁桃炎や歯（虫歯）歯周病などの感染があることが多くみられます。足白癬の診断は真菌の有無を顕微鏡で確認することでできます。放置することで細菌感染を併発したり、爪白癬になったりしているような障害を起こすことがありますので、早めの治療をおすすめします。

胼胝・鶏眼は機械的刺激による限局性の角質肥厚を来す疾患で胼胝はいわゆる「タコ」で足底、手掌、指趾など反復して刺激を受けやすい部位に好発します。鶏眼はいわゆる「ウオノメ」で体重がかかる足底や靴による刺激を受けやすい足趾に好発し、胼胝と異なり角栓があるため

押さえると痛みがあります。胼胝と鶏眼の区別が難しいことがあり、いずれにしても角質の肥厚が高度であれば歩行時の痛みがあり、不自然な歩行となって腰や膝の痛みを来すことがあります。根本治療は原因となった外的刺激を取り除くことや、足の変形を矯正することは困難で、対症療法として定期的に角質を取り除くことが多く行われています。

足底疣贅は疣贅ウイルスによって生じるものですが、鶏眼と間違われることがあり、子供では「ウオノメ」を主訴に受診される場合ほとんどが足底疣贅です。鶏眼との違いはつまんだ方が痛みの強いことです。主として行われている治療は液体窒素による凍結療法です。

その他足の疾患として重要なものは陥入爪・巻き爪で母趾にできやすいです。原因は、深爪外反母趾、あつていない靴による圧迫、爪白癬などの感染症や下肢の障害による爪の変形・肥厚があげられます。日常診療では巻き爪を主訴に受診された方でよく見られるのは短く切り過ぎている場合です。短く切ることで爪の末端が足の指に潜り込んだ状態となり痛みを生じてしまいます。足の爪を切る際にはなるべく爪をまっすぐ切り、角が潜り込まないようにすることが大事です。

はじめに述べたように足は自分の体重を支える重要な器官です。もう少し関心を持って日頃の働きに感謝して見つめてみてはいかがでしょうか。

シルバー人材センターの紹介

(社)南部広域シルバー人材センター

事務局長 米澤 睦雄

南部広域シルバー人材センターは、南部町と伯耆町の2町で構成される広域シルバー人材センターです。



平成4年10月1日に西伯町シルバー人材センターと会見町シルバー人材センターの合併により、広域シルバー人材センターとして設立され、平成7年4月1日には岸本町シルバー人材センターと、平成16年8月1日には溝口町シルバー人材センターとそれぞれ合併し、その後、平成の市町村合併を経て、現在に至っています。南部町と伯耆町は鳥取県西部、

米子市の南部に位置し、表大山の眺望が素晴らしく、歴史的遺産が豊富で、緑豊かな自然に恵まれた地域です。

昨年度の会員数は、五百四十一人で、平成19年度の五百七十六人を境に年々減少傾向にあり、契約金額も二億七百三十六万六千円と、厳しい経済情勢の下、平成19年度の二億二千七百二十九万六千円を境に減少傾向にあります。

当シルバー人材センターでは、広域であるために、二つの支所と二つの出張所を有し、活動をしていいますが、行政刷新会議の事業仕分による補助金削減によりセンター事務所等の合理化が大きな課題となっています。

また、現在、平成23年度中の公益社団法人の認定申請を目指し、それに伴い、就業の適正化に取り組んでいます。関係する法令を遵守することと、会員の就業先を確保することは別の問題であることを再認識し、名実ともに地域社会に貢献し、信頼される公益社団法人となるための取組みを進めてまいります。

(社)岩美町シルバー人材センター

事務局長 牧野 淳正

岩美町は、鳥取県の最東北端に位置し、東は兵庫県に隣接し、北は日本海に面しています。

平成22年7月には、景勝地である浦富海岸を含む山陰海岸が日本ジオパークに認定され、山陰海岸ジオパークとなり、10月には世界ジオパークネットワーク加盟が認定され、日本で4番目の加盟地域となりました。

今後、官民一体となった観光推進や教育・研究・



イベントなどの取組みが検討されているところであり、当シルバーも何かの協力をしていきたいと考えています。

岩美町シルバー人材センターは平成9年7月に設立され、平成14年11月に法人化し、今日に至っています。

現在会員数は182名、平成21年度受注件数は946件、契約額は三千四百万円となっております。平成22年度は、前年を若干上回る見通しです。また、平成21年度より独自事業として、岩美町の特産品である「まこも」の葉を利用した「まこものしめ飾り」の製作販売を開始し、初年度は28万円を売り上げました。今後も継続していく予定です。

岩美町に於いても、他の町村と同様に高齢化が進み、高齢化率は約37%であり、シルバー人材センターの受注先も、高齢者家庭、特に一人暮らしの高齢者からの受注が年々増加しています。こういった地域ニーズを把握し、地域に信頼され活用されるシルバー人材センターとなるよう日々努力を重ねていきます。

事業仕分による補助金削減・公益社団法人への移行など、課題はたくさんありますが、役員一丸となって頑張っていきます。

趣味のひととき

私の生きがい

(社)琴浦町シルバー人材センター

会員 高橋 伊都子

定年退職と同時に友人の勧めで、シルバー人材センターの仲間入りをさせていただきました。



若い頃から書を学び、現職にはポスター・行事の書き初め等、あらゆる面において勉強させていただきました。そのおかげで、人材センターでは賞状書き・ヘルパーと色々お役に立て、今までやってきたことが活かされていることを強く感じます。書の展覧会には、数々の賞を頂き、それを励みとして、毎日が勉強です。

書との関わりの中、また最近では詩吟の仲間も出来、週一回なごやかに練習し、地域の敬老会には初陣を飾り、皆さんにとっても喜んでいただきました。

月曜日には3B体操、金曜日は詩吟教室、筆は毎日持つことをモットーとして生活しております。時間があれば、少しばかりの畑で花・野菜作りに・・



と、とても癒されます。今まで素晴らしい師に恵まれ、生きてゆく指針を導いていただいているように思えます。「人生80年」と言われており、これからも人との出会いを大切に、毎日健康で生活が出来、静かに安らかなこの現在の我が境遇にとても感謝しております。

私の趣味としての太極拳

(社)境港市シルバー人材センター

会員 錦 織 勇

今から18年ほど前のことです。あなたの趣味は何ですかと問われました。返答に困りました。特別になかったからです。

そのようなとき、太極拳を見ました。なんてゆったりした単純そうな動きだろうと。これなら自分にも出来そうと思い、習うことにしました。

習って一年目頃、太極拳は思っているほど簡単なものではなかった。相反する動作動力、筋力と柔軟性、バランスと重心移動等々の難しさ。初歩が出来て、さらなる難しさの発見。こんな時、老師が言われた「高齢者は高度な技術を追求せず、健康第一に楽しく行うべし」を心に趣味としての太極拳に励んでいる。

現在、私は太極拳初段と普及指導員の資格を取得しています。境港には百三十名ほどの会員と上級指導員もおられ、各教室もあります。

各教室では、心身とも健康増進のため、楽しく練習に励んでおります。

年間行事も多く、一月には「米子武道館」にて鏡開きに参加し表演します。

写真は、境港の台場公園桜まつりの時、表演したものです。



シャトルの魅力に取り憑かれて

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

事務局次長 樋野 富成



私が、バドミントンの魅力に取り憑かれて、シャトルを追いかけるようになったのは、30年前のことでした。当時、私の勤めていた電電公社では、

毎年レクリエーションで色々なスポーツの大会が開催されており、その中で、バドミントンの大会に出会ったのですが、私は選手としてではなく、選手の引率及び世話係として参加しました。最初は、バドミントンなんて、「羽根つき」程度の理解でしたが、大会の会場で目にした光景に、「なに！」と目を奪われました。激しく動く選手、異常な早さで飛び交うシャトル、この時から、私のバドミントン人生が始まりました。

去る9月19日に行われた米子市職場対抗バドミントンリーグにシルバー連合として参加をいたしました。1部から7部まで有り、各部とも7チームのリーグ戦を戦うのですが、私たちは初参加ということもあり、6部で出場しました。倉吉の中林理事長をはじめ、橋本局長・中本さん、鳥取の洞山さん、南部町の遠藤さん、境港の村田さん、それと私の7名で参加しました。結果は、全勝で優勝することが出来ましたが、特に、中林理事長は昔取った杵柄で、随所に素晴らしいプレーを見せていただきました。

みんなが一丸となって勝ち取れた栄光だと思っております。今年も、スケジュールが合えば、参加したいと思っております。



会員の広場

シルバーは我が余生の生きがい

(社)鳥取市シルバー人材センター

岡本博義

私は、鳥取永住を決めて、他県から転入して丸三年、そしてシルバーに入会後は就業にボランティアに、また会員同士のコミュニケーションにと積極的に参加させていただいております。就業して、鳥取駅周辺に見られる放置自転車の多さに嘆いている昨今です。この見回りと撤去の業務は、市からの委託を受け、二十数年経過しているのです、市民も良く承知のことと思いますが、駅には二カ所の駐輪場があります。

中には「ちよつとの間」「少しぐらいは」との軽い気持ちからかそのまま放置されている人もあると思います。時間の経過と共に仕方なく撤去しますが、撤去時は、「まだ人様の所有物だから」



放置自転車の撤去をする岡本さん

と気を遣い、トラックに積み込んでいます。

もう一つの嘆きは、一時保管の駐輪場に返還の申し出が少なくことです。

そして、引き取りが無く、

持ち主が現れるのを待っている自転車を眺める度に出る言葉は、「持ち主、何をしているのか、もったいないな」。

超高齢社会におけるシルバー人材センターの発展は、「自主・自立・共働・共助」を基に会員一人ひとりの「活動」と「成長」が支えるものの。

そして会員で構成されている組織であるから、我々はシルバーの看板を背負って就業しているという気持ちを持たねばならないと思います。長年培ってきた自らの経験・能力を活かしながら「地域貢献」に積極的に参画し、「自らの生きがいの充実」を図り、健康で楽しい人生を送るべく努力することも又、たいせつな事であると思います。

人には自分では気づかない、隠れた「能力」があるものです。その「能力」を掘り起こし、オールマイティー的な会員として就業されんことを願う一人です。



放置自転車の確認中

シルバー人材センターの

会員になって



(社)湯梨浜町シルバー

人材センター

鈴木英子

長い間、勤めていた職場を定年退職して、毎日家にいると何か大きな忘れ物をしたようで、落ち着かない日々を送っておりました。

このまま家に閉じこもっていてもいいとは思っていません。

何か次の仕事を探さなくてはと思い、シルバー人材センターに登録しましたが、なかなか思いうような仕事はありませんでした。

そんな矢先、町村合併があり、町広報誌仕事業・清掃等が一月に一回ずつ有り、収入は僅かですが同年代の友達も出来て、色々人生経験の話の話を聞いたりして、今では皆と会うのが楽しみです。

今年、会員の親睦を兼ねてグランドゴルフ・研修会等に参加させていただき、今では老後の生き甲斐の場となっております。

この度、国の事業仕分により、シルバー人材センターの補助金縮減が提示され、センターの運営が危ぶまれております。

私たちも頑張りますので、そんなことにならないよう、関係各位にお願いいたします。

講習会に参加して

訪問介護員養成研修 「2級課程」に参加して

(鳥取会場)



谷川 寿一

はじめは軽い気持ちで申し込みましたが、開講式での説明で期間24日中1日たりとも欠席・遅刻したら資格は出せませんとのこと。

最後まで続くか不安いっぱいスタートでした。

しかし、講師の先生方の授業が面白く、いっしょに引き込まれてしまふとも、自分に、老いに向かっているの



で介護される立場になつたらと言う気持ちで真剣に勉強していると、いつしか楽しくなり、あつという間の24日間でした。

介護実習・

訪問介護・デイスーパービス等、頭ではある程度分かっているつもりでしたが、19日目がいよいよ幸朋苑での

初めての現場実習は不安と、どんなものかのぞいてみたいという気持ちでしたが、当日は軽い痴呆症の方が50名入所されておられる所で、食事・排泄・入浴の手伝いをしましたが、特に排泄・入浴は習ったとおりに行かない人もおられ、その大変さには驚かされました。次は訪問介護で、施設に入所待ちの痴呆のある90歳近い方で、家族は都会に出ていて、普段は一人でおられるとのこと。昼は畑に出たりするので気が紛れるが、夜が淋しいと言っておられ、自分も身につまされる気持ちで聞いておりました。また、ヘルパーさんのできばきとした食事作り・掃除には少々びっくりしました。

最後の実習は、鳥取市北デイスーパービスで30名の方が来られましたが、健康にばらつきがあり、元気な



方から車椅子の方までおられました。10時のおやつの時間には、健康な方の将棋の相手をしてくれと言ふことでしたので、「あつ」という間に時間が過ぎてしまいました。

実習等で感じたことは、こういう施設に入所できない待機の人が多数おられるとのこと。

施設に入所できない人は在宅でホームヘルパーさんたちが介護しているかと思いますが、一人暮らしの高齢者が増える中、24時間三百六十五日訪問介護を受けるわけにもいかず、もし自分がそういう立場になったらどうなるのかという不安と、健康というものについて今まで以上に真剣に考え、気をつけるようになりました。

受講者は、男女合わせて18名で、皆が講習最終日は対翠閣で会食し、親睦を深め、情報交換等するため、今後も時々再会することを約束し、散会しました。

最後になりましたが、お世話になりました講師の先生をはじめ、関係機関の皆さん、この講習を企画し、お世話をいただいた人材センターの皆様には厚くお礼申し上げます。



調理アシスタント 講習を受講して

(倉吉会場)



青山 洋子

8月25日から8日間、鳥取短期大学を会場に、講師は鳥取短大の教授の先生方総勢7名。受講者は男性2名、女性15名で、座学と実習を合わせた講習でした。

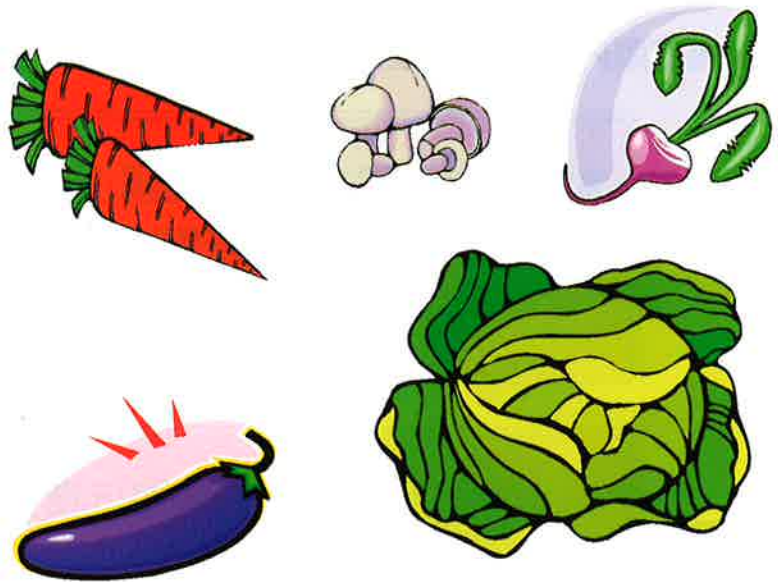
座学は、「調理の基本」「栄養学」「生活習慣病の予防」等々。先生方は、テキストやスライドを用意され、「聞くだけの二時間はつらいでしょう」と受講者を気遣いながら、それぞれの専門の分野を分かりやすく、熱心に講義されました。興味深く聴きました。



実習は、4〜5人のグループに分かれ、レシピを見ながら、和食・洋食・中華・病人食を日替わりで作りました。

調理技術の基本・計量・切る・味を付ける・火加減等レシピどおりの手順や調理は難しい面も多々ありましたが、先生のご指導やアドバイスとチームワークで何とか出来上がり、ほっとしました。

私は、何十年も目分量で味付けをし、自己流で料理を作っていたので、材料から計量をし、調味料をg単位で計って使う調理に戸惑い、手順を間違え、青くなったり、苦笑いしたり、バタバタしっぱなしでした。それでも、素材を活かし、調味料を選び適量にすることで、見た目も美しく、おいしく出来上がった料理に感激し、大満足しました。



調理は、みんなが楽しく食事が摂れるように、栄養を考え、見た目の彩りや食感の工夫をし、なおかつ調理環境を清潔にすることが大切であると改めて痛感しました。

調理アシスタントとして就業するには、体力的には不安もありますが、今回の講習で会得した知識や経験を活かし、出来る範囲でお手伝いをし、今後に役立てたいと考えています。

また、この講習会で同年代の方々と出会い、仲良くなり、同じ目標に向かって学ぶことが出来て、学生時代に戻ったような日々でした。

お世話になりました先生方をはじめ、関係者の皆様、有意義な時間を与えてくださり、本当に有り難うございました。

●鳥取県の最低賃金●

最低賃金は、最低賃金法に基づいて決定されたもので、鳥取県内では、使用者はこれより低い賃金で労働者を使用することはできません。

◎ 鳥取県内の事業所で働くすべての労働者とその使用者に適用される

→	鳥取県最低賃金 (1時間 642円)	発行年月日 平成22年10月31日
---	-----------------------	----------------------

◎ 鳥取県内の特定の産業で働く労働者とその使用者に適用される

→	鳥取県電気機械器具・情報通信機械器具・電子部品 デバイス製造業最低賃金 (1時間 734円)	発行年月日 平成23年1月20日
---	--	---------------------

→	鳥取県各種商品小売業最低賃金 (1時間 690円) (1時間 694円)	発行年月日 平成23年2月10日まで 平成23年2月11日から
---	--	---------------------------------------

※詳細については、鳥取労働局賃金室又は最寄りの労働基準監督署にお尋ね下さい。

鳥取労働局賃金室	電話(0857)29-1705
鳥取労働基準監督署	電話(0857)24-3211
米子労働基準監督署	電話(0859)34-2231
倉吉労働基準監督署	電話(0858)22-6274

※シルバー会員の配分金について

シルバー人材センターが受注する仕事の対価については、当該地域における類似の仕事の対価に比べて著しく低くならないように留意し、仕事の見積基準等は、地域の最低賃金や業界の一般的な基準を参考にすることが必要です。



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会
スタッフ一同

新年あけまして
おめでとうございます
本年もよろしく
お願い申し上げます
平成二十三年



表紙のことば

国登録重要文化財「石谷家住宅」

正面玄関の門松(智頭町)

写真撮影：西尾 仁

石谷家は、敷地三〇〇坪・部屋数四十余りと七棟の土蔵を有する大規模な和風建築で、池泉庭園や利休様式の茶室もある。

あとがき

今回も、関係各位のご協力によりまして第二十四号の発行を迎えることができました。まずもって、厚くお礼申し上げます。

昨年末に事業仕分の第三弾が行われ、シルバー事業につきましても、かなり厳しい裁定が下されました。その際には、各センター一丸となった要請活動及び署名活動を行っていただきました。大変お疲れ様でした。

更に、今年は公益法人移行に向けての最終段階に入ります。益々厳しい情勢ではありますが、シルバー連合存続のため、更に結束を深めていきたいと思えます。

会報鳥取 第24号
平成23年1月発行

発行：社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

所在地：〒683-0812 鳥取県米子市角盤町丁目76

電話：0859-37-2531

FAX：0859-37-2537

印刷：(有)ニシキ印刷
鳥取県米子市灘町3-150

電話：0859-32-2250

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

名 称	〒	所 在 地	電 話	F A X	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0845	鳥取市富安2-104-1	0857-22-0050	0857-22-0051	木島 敏行
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	宇野 治巳
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870	0858-23-6101	中林 正樹
(社)境港市シルバー人材センター	684-0034	境港市昭和町11-22	0859-47-4540	0859-47-4541	西村 岩市
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	安達 幸男
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	小林 實夫
(社)岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2512	谷口 幹彦
(社)湯梨浜町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-2	0858-35-4130	0858-35-4130	足立 春人
(社)琴浦町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡琴浦町浦安152-3	0858-52-1001	0858-52-1004	足立 慎夫
(社)北栄町シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北栄町田井46-2	0858-36-6220	0858-36-6227	日置 勝彦
(社)大山町シルバー人材センター	689-3332	西伯郡大山町末長269-1	0859-53-4787	0859-53-1310	近藤 昭夫
(一・社)八頭町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡八頭町宮谷254-1	0858-72-3351	0858-72-3351	衣笠 春寿
江府町シルバー人材センター	689-4413	日野郡江府町州河崎62	0859-75-3211	0859-75-3211	宇田川 勉
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山357	0859-82-0223	0859-82-0223	矢吹 隼之
三朝町シルバー人材センター	682-0152	東伯郡三朝町本泉359-1	0858-43-1883	0858-43-1883	馬野 忠嗣